



# 平成31年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年8月10日

上場会社名 愛眼株式会社  
 コード番号 9854 URL <http://www.aigan.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長  
 四半期報告書提出予定日 平成30年8月10日  
 配当支払開始予定日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東  
 (氏名) 下條 三千夫  
 (氏名) 佐々 昌俊  
 TEL 06-6772-3383

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成31年3月期第1四半期の連結業績(平成30年4月1日～平成30年6月30日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第1四半期	4,133	0.4	68	26.5	94	15.1	61	24.1
30年3月期第1四半期	4,149	1.4	93		110		80	

(注) 包括利益 31年3月期第1四半期 56百万円 (49.3%) 30年3月期第1四半期 110百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第1四半期	3.14	
30年3月期第1四半期	4.14	

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第1四半期	16,976	14,169	83.5
30年3月期	16,849	14,171	84.1

(参考) 自己資本 31年3月期第1四半期 14,169百万円 30年3月期 14,171百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期		0.00		3.00	3.00
31年3月期					
31年3月期(予想)		0.00			

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成31年3月期(予想)期末の配当につきましては未定であります。

## 3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	8,869	3.0	336	1.9	377	5.1	289	12.1	14.92
通期	16,942	3.7	265	11.0	348	10.0	234	29.6	12.10

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年3月期1Q	21,076,154 株	30年3月期	21,076,154 株
期末自己株式数	31年3月期1Q	1,667,675 株	30年3月期	1,667,675 株
期中平均株式数(四半期累計)	31年3月期1Q	19,408,479 株	30年3月期1Q	19,408,577 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(追加情報) .....	8
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境に改善が見られ、緩やかな景気回復傾向にあるものの、米国の政策動向への懸念や朝鮮半島情勢の緊迫化などから、先行き不透明な状況が続いております。また、個人消費につきましても、消費者物価の上昇懸念や社会保険料の将来的な負担増などを背景に、消費者マインドの持ち直しに足踏み状態が見られ、未だ本格的な回復には至っておりません。

このような状況のもと当社グループは、お客様からの支持・信頼の獲得に照準を当てた諸施策による事業収益の拡大を最重点課題とし、経営資源の効率的な活用を進めることで、成長軌道の一段高いステージへのステップアップを図っております。

当第1四半期連結累計期間の経営成績は、主に眼鏡小売事業の既存店売上では前年を若干上回ったものの、売上高は4,133百万円（前年同四半期比0.4%減）と前年を下回り、売上総利益率は、主に品種別の売上構成比の変化の影響で0.6ポイント減少しました。一方、経費面では、広告宣伝費が増加したものの、経費コントロールの徹底に努めたことにより、販売費及び一般管理費は2,774百万円（前年同四半期比0.5%減）となりました。この結果、営業利益は68百万円（前年同四半期比26.5%減）、経常利益は94百万円（前年同四半期比15.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は61百万円（前年同四半期比24.1%減）となりました。

当社グループにおける報告セグメントごとの状況は次のとおりです。

## [眼鏡小売事業]

当社グループの中核事業である国内眼鏡小売事業につきましては、眼鏡専門店として永年培ってきた安心の視力・聴力補正技術、高い専門性を要する商品提案力と接客・おもてなし力の全てが結集した愛眼ブランドを強化することで、お客様の満足度アップに努めてまいりました。

商品につきましては、「目の健康」をテーマとして、幅広い年齢層の多岐にわたるニーズに対応した快適で機能的な高付加価値商品を開発し、品質・価格の両面において、競争力があり、お客様にとって納得の商品の品揃えの拡充に取り組んでまいりました。

売上高につきましては、主に低価格帯商品の販売数の減少等により伸び悩みました。品種別では、サングラスは、販売促進を進めましたが、売上は、前年の伸長の反動もあり、前年同四半期比で減少となりました。また、補聴器は、販売促進を強化したことに加え、店舗におけるお試しレンタルサービスとアフターケアが好評を得て、引き続き順調に推移しました。

店舗につきましては、既存店の活性化を目的にした改装を6店舗で実施しました。

この結果、眼鏡小売事業における売上高は3,952百万円（前年同四半期比0.1%減）、セグメント利益は103百万円（前年同四半期比16.5%減）となりました。

## [眼鏡卸売事業]

眼鏡卸売事業につきましては、得意先小売店に対する新規開発商品の投入や販売支援に努めるとともに、新規取引先の開拓に取り組んでおりますが、売上高は122百万円（前年同四半期比3.0%減）となり、セグメント損失は2百万円（前年同四半期はセグメント損失1百万円）となりました。

## [写真館事業]

写真館（名称：愛写館）3店舗を営む写真館事業につきましては、お得な写真プランの充実に取り組み、家族写真では「孫と撮ろう」キャンペーン、七五三のお客様には「七五三着物レンタル&前撮り写真プラン」、成人式のお客様には「振袖レンタル&前撮り写真プラン」など二度着るレンタルプラン・キャンペーンを展開して集客に注力してまいりましたが、市場競争の激化により厳しい状況が続いております。

この結果、写真館事業における売上高は22百万円（前年同四半期比16.1%減）、セグメント損失は18百万円（前年同四半期はセグメント損失18百万円）となりました。

## [海外眼鏡販売事業]

海外眼鏡販売事業につきましては、経営環境が引き続き厳しい状況にあるなか、既存店の採算の改善に努めておりますが、店舗数の減少に伴い売上高は35百万円（前年同四半期比12.0%減）、セグメント損失は4百万円（前年同四半期はセグメント損失3百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は16,976百万円、負債合計は2,807百万円、純資産合計は14,169百万円となりました。前連結会計年度末に比べ負債合計が129百万円増加し、純資産合計が2百万円減少した結果、自己資本比率は83.5%となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年5月11日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,014	4,978
受取手形及び売掛金	937	951
有価証券	300	300
商品及び製品	2,177	2,292
原材料及び貯蔵品	36	37
その他	173	259
貸倒引当金	△3	△3
流動資産合計	8,636	8,815
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,022	1,018
土地	1,887	1,887
リース資産（純額）	17	12
その他（純額）	149	176
有形固定資産合計	3,076	3,095
無形固定資産		
リース資産	38	34
その他	10	9
無形固定資産合計	49	43
投資その他の資産		
投資有価証券	1,050	1,046
敷金及び保証金	3,400	3,341
その他	636	633
投資その他の資産合計	5,087	5,021
固定資産合計	8,213	8,160
資産合計	16,849	16,976

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	540	726
未払法人税等	186	67
賞与引当金	120	65
その他	1,152	1,303
流動負債合計	1,999	2,163
固定負債		
繰延税金負債	49	47
再評価に係る繰延税金負債	6	6
資産除去債務	336	331
リース債務	124	96
その他	160	161
固定負債合計	678	644
負債合計	2,677	2,807
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,478	5,478
資本剰余金	6,962	6,962
利益剰余金	5,108	5,110
自己株式	△1,050	△1,050
株主資本合計	16,497	16,500
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	113	110
土地再評価差額金	△2,471	△2,471
為替換算調整勘定	31	29
その他の包括利益累計額合計	△2,325	△2,330
純資産合計	14,171	14,169
負債純資産合計	16,849	16,976

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
売上高	4,149	4,133
売上原価	1,269	1,290
売上総利益	2,880	2,842
販売費及び一般管理費	2,787	2,774
営業利益	93	68
営業外収益		
受取利息	2	2
受取配当金	6	5
受取家賃	16	16
その他	7	11
営業外収益合計	32	36
営業外費用		
支払利息	0	—
固定資産除却損	3	1
賃貸費用	10	10
その他	0	0
営業外費用合計	14	11
経常利益	110	94
特別損失		
投資有価証券評価損	—	2
特別損失合計	—	2
税金等調整前四半期純利益	110	91
法人税、住民税及び事業税	30	31
法人税等調整額	0	△0
法人税等合計	30	30
四半期純利益	80	61
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	80	61



（四半期連結包括利益計算書）  
（第1四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第1四半期連結累計期間 （自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日）
四半期純利益	80	61
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	32	△3
為替換算調整勘定	△2	△1
その他の包括利益合計	30	△4
四半期包括利益	110	56
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	110	56
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連 結損益計 算書 計上額 (注) 2
	眼鏡小売	眼鏡卸売	写真館	海外 眼鏡販売			
売上高							
外部顧客への売上高	3,955	126	26	40	4,149	—	4,149
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	22	—	—	22	△22	—
計	3,955	149	26	40	4,172	△22	4,149
セグメント利益又は損失(△)	123	△1	△18	△3	100	△7	93

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去3百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△11百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない連結財務諸表提出会社の費用です。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注) 1	四半期連 結損益計 算書 計上額 (注) 2
	眼鏡小売	眼鏡卸売	写真館	海外 眼鏡販売			
売上高							
外部顧客への売上高	3,952	122	22	35	4,133	—	4,133
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	22	—	—	22	△22	—
計	3,952	145	22	35	4,155	△22	4,133
セグメント利益又は損失(△)	103	△2	△18	△4	77	△9	68

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去3百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△12百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない連結財務諸表提出会社の費用です。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。